

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 4 月 26 日現在

機関番号：12601

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2016

課題番号：15K13026

研究課題名（和文）日本経済史の再構築 開発と持続可能な経済成長との調和をめざして

研究課題名（英文）Reconsidering Japanese Economic History

研究代表者

中村 尚史（Nakamura, Naofumi）

東京大学・社会科学研究所・教授

研究者番号：60262086

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の最大の成果は『岩波講座日本経済の歴史』全6巻の執筆・編集である。本講座には50名を超える経済史・経済学研究者が参加し、歴史学と経済学という互いの方法を持ち寄って、11世紀から21世紀という1000年におよぶ日本経済の歴史を通観した。その際、超長期経済成長推計をもとに、中世、近世、近代、現代といった各時代のマクロ経済的な状況を把握した上で、労働と人口、金融、農業と土地用益、鉱工業、商業とサービスといったテーマごとの経済活動を詳細に検討するという方法を採用した。その結果、時代とテーマのマトリックスを辿ることで、日本経済の歴史を縦横に読み解くことが可能になった。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research was to reexamine the long-term economic history of Japan. The writing and publication of the six-volume Iwanami Series: History of the Japanese Economy represents the culmination of this research. The publication constitutes a general historical study of the Japanese economy over the millennium from the 11th to the 21st century by bringing together contributions from over 50 economic historians and economists. The book first describes the macroeconomic circumstances in each of four ages; middle ages, early modern times, the modern era, and contemporary Japan; based on ultra-long-term estimation of economic growth. This is followed by detailed examination of economic activities under various themes including labor and population, financing, agriculture and land use, mining and manufacturing, and commerce and service. By following this matrix of ages and themes, the book series is able to provide a complete picture of Japanese economic history.

研究分野：日本経済史

キーワード：日本経済の歴史 超長期経済成長推計 国内総生産 労働と人口 金融 農業と土地用益 鉱工業 商業とサービス

1. 研究開始当初の背景

1988-1990年に刊行された『日本経済史』全8巻(岩波書店)は、現代経済学の知見を導入した包括的な日本経済史の研究成果として名高い。しかしこのシリーズは、「数量経済史」を標榜した企画であったにもかかわらず、国内(国民)総生産推計について近代における既存のそれを引くにとどまっておらず、超長期の生産推計を提供していたわけではなかった。また中世の分析が不十分であったため、近世における経済発展の何が、それ以前と比べて新しく、またどのような問題を抱えていたのか、判然としないという欠点を有している。さらに前近代における主要産業であったにもかかわらず、農業・土地利用の分析が全体的に弱いことから、開発の持続可能性の視点も乏しかった。一方、これらの問題点は、近年における経済史研究の進展によって、克服が可能になっている。まず国内総生産(GDP)については、近年、前近代における経済成長統計が整備されつつある。超長期のGDP推計で問題になるのは、中世における史料制約であるが、近年、荘園制研究における土地関係データ・ベースの蓄積などによって、その隘路克服の可能性が出てきた。また中世期の経済史研究についても、荘園制研究に加え、貨幣を軸にした金融史、流通史が大いに進展している。農業史においては、農業経済学や開発経済学の発達とともに、土地利用をめぐる経済学的研究が盛んになってきた。成長が自然環境的、人間社会的限界に直面したとき、それをいかにして持続可能ならしめたかを知るにも、土地利用史に一貫した見通しを与えることは不可欠である。共同体の機能に注目した開発経済学的な農業史研究は、こうした課題に十分に応えうる。このように最新の経済学の成果を取り込むことで、日本経済史の新天地が拓けると考えた。

2. 研究の目的

本研究は、11世紀から21世紀にいたる長期的な経済発展の歴史を、現代経済学を参照しつつ統一的に捉え直し、過去、現在、そして未来の日本における開発と持続可能な経済発展との調和を考えることを目的とした。具体的には、まず中世から現代にいたる超長期の経済成長推計を行い、前近代と近代、そして現代との連続をはかった。その上で、中世、近世、近代、現代といった時代ごとに、農業と土地用益権取引、金融仲介と金融市場、労働と人口、交易と交通、鉱工業生産といった各分野の経済活動を再検討し、日本経済の長い歴史を包括的に理解することを目指した。

3. 研究の方法

本研究の方法的な斬新性は、11世紀から21世紀にいたる1100年間を対象とする超長期分析と、現代経済学の知見を積極的に導入した新しい日本経済史像の構築、という2つの点にある。

このうち、超長期分析については、従来、研究が手薄であった中世と、2000年代以降の経済史的研究を積極的にすすめた。その際、中世史については、日本史の分野で蓄積が豊富な制度史研究をベースとしながらも、新たに超長期GDP推計を試み、計量的な研究にチャレンジした。この作業には、歴史学者と経済学者との緊密な連携が不可欠であり、経済史研究の新たなフロンティアとなり得る。また2000年代以降の現代については、従来、主に日本経済論の分野で現状分析的に取り扱われ、経済史研究の対象にはなりにくかった。しかし、「失われた20年」を経験し、右肩上がりの経済成長を相対化できるようになった今こそ、現代経済史の見直しが必要である。そのためには、2000年代を歴史的な視点から分析することで、高度経済成長期や安定成長期とは異なる、新たな時代としての「現代経済」の歴史的位相を把握することが不可欠である。

一方、現代経済学の知見の導入については、歴史学と経済学との真摯な対話を目指した。経済史学はこれまでも、現代経済学の理論・実証研究から多くのことを学んできた。しかし、残念ながら、従来は、理論・実証研究のなかで、経済史に都合の良い部分だけを、アドホックに取り入れるという傾向が強かったといえる。その一つの原因は、経済史と現代経済学との双方向の交流が乏しかった点に求められる。そこで私たちは、経済学者と歴史学者との対話を緊密化し、真の意味での共同研究を構築したいと考えた。日本史学の分野のみならず、経済史の分野でさえも、経済学離れが進みつつある昨今において、それは一定の斬新性を持つと言える。

4. 研究成果

本研究の最大の成果は2年間の濃密な共同研究によって『岩波講座日本経済の歴史』全6巻の執筆・編集を可能にしたことである。本講座では50名を超える経済史・経済学研究者が執筆に参加し、歴史学と経済学という互いの方法を持ち寄って、11世紀から21世紀という1100年におよぶ日本経済の歴史を通観した。その際、超長期経済成長推計をもとに、中世、近世、近代、現代といった各時代のマクロ経済的な時代像を構築した上で、労働と人口、金融、農業と土地用益、鉱工業、商業とサービスといった各分野の経済活動を詳細に検討するという方法を採用した。その結果、時代とテーマ(分野)のマトリックスを辿り、日本経済の歴史を縦横に読み解くことが可能になった。その具体的な構成と執筆者は以下の通りである。

【第1巻 中世】

- 序章第1節 成長とマクロ経済
高島正憲・深尾京司・西谷正浩
- 第2節 政府の役割
西谷正浩・早島大祐・中林真幸
- 第3節 所得と資産の分配
中林真幸・西谷正浩
- 第1章 労働と人口 斎籐修・高島正憲
- 第2章 金融
第1節 中世の金融 早島大祐
第2節 中世貨幣 本多博之
- 第3章 農業と土地用益
第1節 西谷正浩
第2節 中世における不動産価格の決定構造
貴田潔
第3節 15-16世紀における土地売買の保証
早島大祐
- 第4章 鉱工業 鈴木敦子
- 第5章 交易 綿貫友子
- 付録 生産・物価・所得の推定
深尾京司・斎籐修・高島正憲・貴田潔

【第2巻 近世】

- 序章第1節 成長とマクロ経済
高島正憲・深尾京司・今村直樹
- 第2節 政府の役割 中林真幸・森口千晶
- 第3節 所得と資産の分配
今村直樹・中林真幸
- 第1章 労働と人口 斎籐修・高島正憲
- 第2章 金融
第1節 金融概観 高槻泰郎
第2節 米切手市場 柴本昌彦・高槻泰郎
第3節 農村金融・地方都市金融 牧原成征
- 第3章 農業と土地用益
第1節 近世の農業と地主経営
萬代悠・中林真幸
第2節 都市不動産市場 鷲崎俊太郎
- 第4章 鉱工業
第1節 鉱工業生産全般 谷本雅之
第2節 鉱工業生産の数量的接近 今村直樹
- 第5章 近世日本の市場と商業 宮本又郎
- 付録 生産・物価・所得の推定
深尾京司・斎籐修・高島正憲・今村直樹

【第3巻 近代1(19世紀後半~1913年)】

- 序章第1節 成長とマクロ経済
深尾京司・攝津齊彦
- 第2節 政府の役割 中村尚史・中林真幸
- 第3節 所得と資産の分配 南亮進・牧野文夫
- 第1章 労働と人口
第1節 工業 中林真幸
第2節 鉱業 酒井真世
第3節 教育投資 神門善久
- 第2章 明治の金融 寺西重郎・結城武延
- 第3章 農業と土地用益
第1節 工業化期の日本農業
坂根嘉弘・有本寛
第2節 都市の土地所有と不動産経営
粕谷誠

第4章 鉱工業

- 第1節 工業 中林真幸
- 第2節 鉱業 酒井真世
- 第5章 交通革命と商業 中村尚史・大島久幸
- 付録 生産・物価・所得の推定
深尾京司・攝津齊彦・中林真幸

【第4巻 近代2(1914-1936年)】

- 序章第1節 成長とマクロ経済
深尾京司・攝津齊彦
- 第2節 政府の役割 寺西重郎・中村尚史
- 第3節 所得と資産の分配 南亮進・牧野文夫
- 第1章 労働と人口
第1節 労働市場 神林龍
第2節 社員の世界・職工の世界 菅山真次
第3節 教育投資 神門善久
- 第2章 銀行業の産業組織と産業・企業金融
岡崎哲二
- 第3章 農業と土地用益
第1節 両大戦間期工業化期の日本農業
有本寛・坂根嘉弘
第2節 都市の土地所有と不動産経営
粕谷誠
- 第4章 両大戦間期における鉱工業
阿部武司・結城武延・白井泉
- 第5章 商業とサービス業
第1節 商業と海運 大島久幸
第2節 陸運業の展開 二階堂行宣
第3節 電力・ガス事業の形成 中村尚史
- 付録 生産・物価・所得の推定
深尾京司・攝津齊彦

【第5巻 近代1(1937-1972年)】

- 序章第1節 成長とマクロ経済
深尾京司・攝津齊彦
- 第2節 政府の役割 尾高煌之助・小塩隆士
- 第3節 所得と資産の分配 南亮進・牧野文夫
- 第1章 労働と人口
第1節 雇用関係の日米比較 森口千晶
第2節 戦後の労働経済
上島康弘・猪木武徳
第3節 生活水準の戦後史
川口大司・室賀貴穂
- 第2章 金融 寺西重郎・長瀬毅
- 第3章 農業と土地用益
第1節 戦時~高度経済成長期の日本農業
荒幡克己・坂根嘉弘
第2節 工業用地 中島賢太郎
第3節 都市不動産のダイナミズム
中村尚史
- 第4章 鉱工業 尾高煌之助
- 第5章 商業とサービス
第1節 サービス産業 森川正之
第2節 国際貿易 冨浦英一
第3節 運輸 中島賢太郎
- 付録 生産・物価・所得の推定
深尾京司・攝津齊彦

【第6巻 近代2(1973-2010年)】

- 序章第1節 成長とマクロ経済 深尾京司

第2節 政府の役割 小塩隆士
 第3節 所得と資産の分配 南亮進・牧野文夫
 第1章 労働市場の変化と生活水準
 川口大司・室賀貴穂
 第2章 低成長下の日本の金融システム
 内田浩史
 第3章 農業と土地利益
 第1節 都市不動産とバブル/デフレ
 中村尚史
 第2節 減反政策の展開 荒幡克己
 第3節 農業 神門善久
 第4章 鉱工業
 第1節 鉱工業 深尾京司
 第2節 建設業 山崎福寿・原野啓
 第5章 商業とサービス
 第1節 サービス産業 森川正之
 第2節 国際貿易 富浦英一
 第3節 運輸 中島賢太郎
 付録 生産・物価・所得の推定 深尾京司

本講座は、全6巻、総頁数 1800 頁を超える膨大な著作であるが、全体が時代と分野によるマトリックス構造になっているため、必要に応じて知りたい時代やテーマのみを取り出すことが可能である。例えば金融の発展を長い時間軸の中で考えたい人は、中世から現代まで各巻の第2章を通読すれば、その全体像が把握できる。この点は、従来の日本経済史の講座やシリーズにない、本講座の構成上の特徴である。

さらに各巻の巻末には、各時代の生産、物価、所得の推計値が掲載されており、マクロ経済の動きがデータで通覧できる。それは、数量経済史の重要な基礎資料となるであろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[論文](計5件)

攝津齊彦, Jean-Pascal Bassino, 深尾京司, 「明治期経済成長の再検討 産業構造、労働生産性と地域間格差」『経済研究』査読有、67巻3号、2016年、193-214頁

Fukao, Kyoji, Kenta Ikeuchi, Young Gak Kim and Hyeog Ug Kwon, "Why Was Japan Left Behind in the ICT Revolution?", *Telecommunications Policy*, 査読有, 40-5, 2016, 432-449, doi:10.1016/j.telpol.2016.01.008

深尾京司「生産性・産業構造と日本の成長」藤田昌久編『日本経済の持続的成長 エビデンスに基づく政策提言』査読無、東京大学出版会、2016年、173-199頁

中村尚史「知多鉄道の設立と知多商業会議所」中西聡・井奥成彦編著『近代日本の地方

事業家』査読無、日本経済評論社、2015年、445-474頁

中村尚史「近代日本の技術者」谷口明丈編『現場主義の国際比較』査読無、ミネルヴァ書房、2015年、181-212頁

[学会発表](計5件)

中村尚史, '来自地方的産業革命之再思考: 明治時期久留米地区の綿工業與地方企業家', 2016年11月26日, 秩序・治理・産業: 近代東亜政経発展脈絡の再検視国際学術工作坊報告, 台北大学, 新北市, 台湾

Nakamura, Naofumi, 'Diversification and Convergence: Development of locomotive technology in Meiji Japan' August 26, 2016, EBHA 20th Annual Conference / 1st World Congress of Business History, Bergen, Norway.

Fukao, Kyoji, 'The Structural Causes of Japan's Low TFP Growth', Japan Briefing: The Economy, Politics and Innovation Policy March 22, 2016 Weston Theatre, Crawford School of Public Policy, the Australian National University, Canberra, Australia

Fukao, Kyoji 'Immigration and the utilization of the domestic labor force in Japan', Japan Economic Foundation Roundtable, the Political Economy of Japan and the EU: Challenges and Strategies November 13, 2015 Chatham House, London, UK

Nakamura, Naofumi, 'Reconsidering the Roles of the State in Technological Development: Railway and Government in Early Meiji Japan', 17th World Economic History Congress, Kyoto, Japan

[図書](計3件)

深尾京司・中村尚史・中林真幸編、岩波書店、『岩波講座日本経済の歴史』全6巻、2017年、総頁数1800頁

中村尚史, 吉川弘文館、海をわたる機関車: 近代日本の鉄道発展とグローバル化、2016年、263頁

Jorgenson, D.W., K. Fukao and M. P. Timmer eds., Cambridge University Press, *The World Economy: Growth or Stagnation?*, 2016, 596

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中村尚史 (NAKAMURA, Naofumi)
東京大学・社会科学研究所・教授
研究者番号: 60262086

(2) 研究分担者

深尾京司 (FUKAO, Kyoji)
一橋大学・経済研究所・教授
研究者番号: 30173305

(3) 研究分担者

中林真幸 (NAKABAYASHI, Masaki)
東京大学・社会科学研究所・教授
研究者番号: 60302676

(4) 連携研究者

阿部武司 (ABE, Takeshi)
国土館大学・政経学部・教授
研究者番号: 10151101

(5) 連携研究者

川口大司 (KAWAGUCHI, Daiji)
東京大学・経済学研究科・教授
研究者番号: 80346139

(6) 連携研究者

坂根嘉弘 (SAKANE, Yoshihiro)
広島修道大学・商学部・教授
研究者番号: 00183046

(7) 連携研究者

寺西重郎 (TERANISHI, Juro)
一橋大学・経済研究所・名誉教授
研究者番号: 70017664

(8) 連携研究者

宮本又郎 (MIYAMOTO, Matao)
大阪大学・経済学研究科・名誉教授
研究者番号: 50030672